

浦添ようどれと浦添グスクの年表

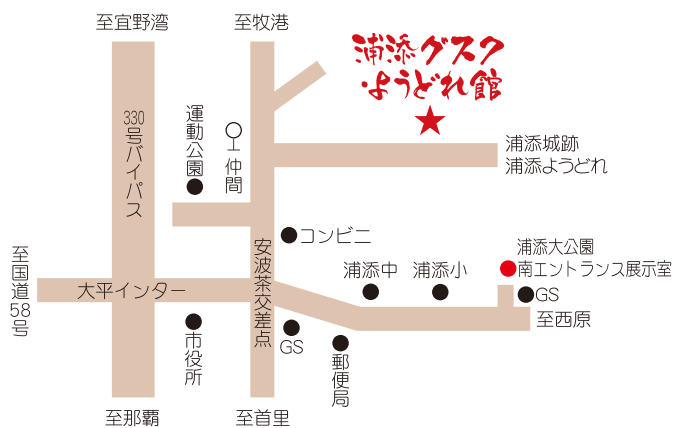
王 統	で き ご と
しゅんてん 舜天王統	
えいそ 英祖王統	この頃浦添グスク築城 咸淳年間(1265～1274)極楽山(ようどれ)・極楽寺造営
さつと 察度王統	この頃浦添グスクの規模が拡大 14世紀前半～ようどれの石垣造営(発掘調査) 15世紀前半 1406 浦添グスク減ぶ
第一尚氏	この頃浦添グスク荒れ果てる
第二尚氏	1524 尚維衡、浦添グスクに居住 1589 浦添出身の尚寧、国王となる 1609 薩摩侵入で浦添グスク落城 1620 尚寧王、ようどれを修造して一族の墓を移す 1759 尚寧王妃の遺骨を天山陵から移葬 1768 ようどれ・玉陵ではじめて清明祭をおこなう 1768 大地震でようどれの石垣所々崩壊 浦添グスクに番所があったと伝わる 1852 「右御墓」(西室)の「殉死ノ者共」の骨を厨子に納める
	1945 沖縄戦でようどれ壊滅 1955 琉球政府がようどれの墓室を修復 2005 ようどれの復元完了 現在、浦添グスクの復元整備を実施中

浦添グスク・ようどれ館



古写真や発掘調査成果のパネル、出土遺物などから浦添グスクと浦添ようどれの歴史がわかりやすく学べます。
実物大で再現されたようどれの西室(英祖王陵)は必見!

【開館時間】 午前9時～午後5時
 【入館料】 大人(高校生以上) 100円
 小人(小・中学生) 50円
 ※市内小中学生は無料
 【休館日】 月曜日・12月28日～1月3日
 ※月曜が祝日の際は開館
 【電 話】 098-874-9345



国指定史跡
浦添城跡内

琉球国中山王陵

浦添ようどれ



西室(英祖王陵)石厨子(沖縄県指定文化財)

浦添市教育委員会文化課

TEL:098-876-1234(内線6213・6214)

浦添ようどれ

浦添ようどれは、浦添グスクの北側崖下にある琉球王国初期の王陵で、咸淳年間(1265-1274年)に英祖王が築いたといわれています。その後1620年に、浦添出身の尚寧王が改修し、王自身もここに葬られました。岩壁に横穴を掘り墓室とし、中には中国産の石で作られた石厨子があります。向かって右側が英祖王、左側が尚寧王の墓といわれています。「ようどれ」とは琉球語の夕風です。



くら うじょう 暗しん御門 (昭和9年 田邊 泰 撮影)

ようどれの前庭からトンネル状の暗しん御門を通して、二番庭へ行きます。そこは暗く、あの世にでも行くような雰囲気でしたが、去る沖縄戦で上部の岩は崩れてしまいました。



復元された浦添ようどれ



とうしつ せいしつ 東室(尚寧王陵)と西室(英祖王陵) (昭和10年代 坂本万七撮影)



西室内部



東室内部



いしじし 石獅子

東室(尚寧王陵)の袖石積みには、墓を守るように石獅子が座っています。もとは左右一対でしたが、右側の石獅子は沖縄戦で失われました。

ようどれのひのもん(極楽山之碑)

尚寧王がようどれを改修工事した記念碑です(1620年建立)。石碑には、ようどれを立派に改修したことや、尚寧が浦添家から国王に迎えられたという内容が記されています。戦後、琉球政府が復元しました。



いしずし 西室(英祖王陵)の石厨子

石厨子には仏像や花、獅子などが浮彫されています。台座には中国泉州の石彫様式と似た浮彫があります。沖縄に現存する最古の仏像彫刻です。